

指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ 指宿まるごと博物館Ⅺ 「海神 開聞岳展」

開催期間：2020年12月24日（木）～2021年3月14日（日）



【企画展の内容・目的】

- 海神開聞岳をテーマとして、開聞岳がその地理的意義から、古代・中世・近世において「海神」として崇められ、地域に残された神話・伝承、開聞岳を祀る枚聞神社への奉納品や、その周辺に形成された旧跡等を紹介する展示により、先人たちが「海とふれあい」、「海と人とがつながる」ことで「海と人とが共生」し、その積み重ねによって、現在の指宿の歴史や民俗・文化が築き上げられたことへの理解を得ることを目標とした。
- 企画展に基づいた講座やフィールドワークを実施し、企画展の主旨へのより深い理解を促すことで、「海洋教育」の推進を目指した。
- 開聞岳の噴火で形成された川尻海岸はウミガメの良好な産卵場となっており、これをテーマにしたミニ企画展「シェルコレ 2020～大海原を渡るウミガメ」の開催と、ウミガメに関連する講座を開催し、海洋環境保全への主体的に行動を芽生えさせ、企画展の事前学習事業として実施した。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2020年12月24日（木）～2021年3月14日（日）
- 開催場所：指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ 2階特別展示室
- 入場者数： 804人



指宿市博物館 外観



企画展会場 入口



第1章「開聞岳の誕生」



第3章「開聞岳を眺めた人々」

第1章「開聞岳の誕生」・第2章「記録された噴火する開聞岳」において、海底噴火開聞岳が、江戸時代には科学的知識なしに海から誕生したとされていたことや、火山噴火がウミガメの良好な産卵地としての海岸を形成するという周辺環境を含めて展示した。

第2章「記録された噴火する開聞岳」では、古代における開聞岳噴火記録と神階上昇の展示を通して、開聞岳の元々の神性の由来が火山であることを展示した。

第3章「開聞岳を眺めた人々」では、「海門山」等の名前の由来や、近世～現代において開聞岳の景観を詠んだり、記したりした詩歌や日記等を展示し、海と山とが融合した開聞岳の景観的特性への理解を促した。



第4章「開聞にまつわる神話」



第5章「海神『開聞岳』」

第4章から第7章では、海神信仰の成立と海神開聞岳と神話伝承との関係、海神信仰と枚聞神社との関連、琉球との関連について展示した。特に、第4章「開聞にまつわる神話」では、地元の神話・伝承が、開聞岳の海神としての位置付けと「古事記」等の日本神話との融合の結果であること、そして、それに基づいた史蹟も周辺に形成されたこと。また、地域独自の産業である漁業や製塩がそれらの神話・伝承と密接に結びついてきたことを説明した。第5章「海神『開聞岳』」では、海神信仰が発生した時期とその経緯について展示した。



第6章「海神を祀る枚聞神社」



第7章「航行目標物開聞岳」

第6章「海神を祀る枚聞神社」では、枚聞神社の宝物と海神祭祀と江戸時代の歴代藩主との関係を表示し、当時の人々にとって海神信仰が高い重要性を有していたことを説明した。第7章「航行目標物開聞岳」では、藩政期において指宿が琉球という海外への唯一の出入口であったという重要な役割を背景に、琉球使節による航行目標物である開聞岳への崇拜を生んだことを展示した。



指宿市博物館 外観



企画展展示解説状況

第8章「名峰『開聞岳』と観光」では、陸から海に突き出した開聞岳が、江戸時代と現代において変わらない観光スポットであることを展示するとともに、江戸時代においては観光ガイドブック的な要素をもつ「三国名勝図会」での記載内容を展示し、現代の観光スポットが江戸時代の「三国名勝図会」に新たなスポットを付加したものであることについて展示した。

【来館者の声】

海の学びに繋がるもの

一番よかった展示

- ・海神とは何かがよく分かった。
- ・枚聞神社の展示品
- ・開聞岳に関する詩と総評

『海』について感じたり学んだこと

- ・海神がいることがわかり神秘的であった。
- ・人々の暮らしに切っても切れない大切なもので、大切にしないといけないと思った
- ・航海の目標物が山であることを初めて知った
- ・汚したりせずに海を大切にする
- ・自然としての美しさ
- ・海は世界に開いているということ。
- ・海が大切だと思った

海の学び以外のものなど

- ・神様がいるのがわかり神秘的だった。
- ・指宿の海は美しいし、神社もとても力がある

2. 関連事業の内容

■ミニ企画展「いぶすきシェルコレ 2020～大海原をわたるウミガメ」

【開催日時】 6月27日（土）～8月30日（日）（8月16日以降中止）

【開催場所】 指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ 2階ロビー

【入場者数】 1,317人

【実施内容・目的】

- 多種多様な貝標本の展示を行い、児童・生徒の学習支援として海の生命の多様性を展示した。企画展の事前学習として実施し、開聞岳の噴火で形成された砂浜を産卵場所としているウミガメと、その周辺の多様な地形に応じた多様な貝と人との関わりについて学べる展示とし、指宿地域の海についてより深く知ってもらい、「海を知る」学習機会とし、「海を守る」海洋環境保全への主体的に行動を芽生えさせることを目的として実施した。



玄関飾りつけ



展示風景（ウミガメの大きさを知る）



展示風景（ウミガメ標本）



展示風景（当館標本の展示）



展示風景（借用資料の展示）



フォトスポット



ミニ企画展ポスター

企画展の事前学習機会として本市の海洋生命の多様性を知ってもらうために、岩礁、砂浜などと採集しやすいスポットに分けて展示し、どのような場所に貝が生息しているのかを解説した。指宿市内の採集スポットを紹介することによって夏季休暇中に親子一緒に採集し、指宿の海について学んでもらった。また、指宿市を産卵場所の一つとしている「ウミガメ」にも焦点をあて、指宿地域の海岸がどのような環境なのかを学んでもらうために、ウミガメの実物標本やウミガメとの背比べパネルを展示することによって、よりウミガメを身近に感じてもらった。特に、火山である開聞岳はその噴出物によって、東側に砂浜、南側と西側に岩場を、沖合には溶岩起源の複雑な地形を形成している。この環境から、砂浜は良好なウミガメの産卵場となり、また砂浜・岩場と沖合は様々な貝類の生息地となっていることへの理解を促せた。

このような展示活用をとおして、海の生物について関心をもち、主体的に進んで調べようとする児童・生徒を育成することで、「海を知る」効果があった。また、海的环境について学ぶ機会にもなり、海的环境保全に主体的に行動を芽生えさせることができ、「海を守る」効果があった。

■海の講座 市民のための「いぶ好き『ふるさと学』」講座

「指宿市の汀の環境とウミガメ」 講師：西隆一郎氏（鹿児島大学）

【開催日時】2020年12月19日（土）13：30～15：00

【開催場所】指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ 1階講堂

【参加者数】20人

【実施内容・目的】

- 鹿児島湾から開聞岳付近の海底地形や海岸地形の変化とウミガメ上陸数の変遷、環境や気候変動がウミガメの卵のふ化に与える影響などについて講義をしていただくことで、自然環境の脆弱さやそれによって影響を受けるウミガメの生息実態を知り、「海を守る」ことの必要性を学ぶことを目標として実施した。



講座受付での幟旗掲示状態



講座状況 1



講座状況 2



講座状況 3

錦江湾から東シナ海にかけての海底構造や開聞岳を含めた指宿市の海底環境に関して学び、自然豊かな本市にあっても、海岸の人工海岸化が進んでおり、自然海岸が失われていることから海洋環境の保全の重要性を学んだ。



講座状況 4

海洋環境の変化とウミガメ上陸数の変化を知ることで、豊かな海洋資源としての多様な生物が気候の変動や人工的な地形改変によりどのような影響を受けているのかを学び、そこから海の環境について調べる活動やその保全活動などへの興味関心を喚起し、海の環境保存に主体的に関ろうとする態度を醸成した。

【来館者の声】

海の学びに繋がるもの

- ・ 指宿の海岸の特徴について詳しく講義してくれて大変勉強になった。指宿にしかない特徴ある海岸についてもっとアピールしたいと思った。
- ・ 毎年ウミガメの数がかわっていることは初めて知り、海の環境は生き物に影響を与えているため、環境を守ることは大切であると思った。
- ・ 指宿にウミガメがたくさん産卵にくることを知り、海はすばらしい生物の宝庫であることを学んだ。
- ・ 知林ヶ島の砂州が自由自在に形を変えることを知り、ウミガメが産卵場所をさがすのも大変と思った。
- ・ 錦江湾の海底の形が複雑だと知り、砂浜は一旦失われるともどってこないことを学んだ。
- ・ ウミガメの生息環境と人工物との関係を知り、生物の多様性を守るむずかしさと、海の豊かさを学んだ

■日曜講座(学芸員講座)「海神開聞岳に関わる歴史や神話について」

【開催日時】2020年12月27日(日)13:30～15:00

【開催場所】指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ 1階講堂

【参加者数】33人

【実施内容・目的】

- 企画展「海神開聞岳展」の展示内容に関して学ぶための講座を実施し、開聞岳が「火山神」から「海神」に変わっていった経緯と理由に関して説明し、先人たち海神信仰をとおして「海とふれあい」、「海と人がつながる」ことで「海と人が共生」したことにより、指宿の歴史や民俗・文化が築き上げられたことへの理解を得ることを目標として実施した。



学芸員講座玄関前での幟旗掲示



講座状況 1



講座状況 2



講座状況 3

開聞岳の火山としての活動歴と、それに関する記録や考古学的発見等を交え、恐ろしい火山神として祀られた開聞岳の歴史への理解を得、その後「海神」となったプロセスと実態への理解を促すことで、地域の産業・文化と海との深いつながりへの理解を得ようとした。



講座状況 4

【来館者の声】

- 開聞岳が神様になった理由を学び、海神は市のシンボルであることがわかった。
- 古代から海の神とした開聞岳が崇拜されたことを学び、海は古代から人と繋がっていたことがわかった。
- 大宮姫伝説、皇后来について知ることで、地元の海に対する愛着がより深まった。
- 山川港と開聞岳のつながりを知ることで、海をとおして交易がおこなわれたこと、海の大切さがわかった
- 川尻浜と塩釜について知ることで、海は生きていくのに欠かせないことを知った。

■学芸員講座フィールドワーク①

【開催日時】2021年2月14日(日) 8:30 ~ 12:30

【開催場所】時遊館COCCOはしむれ→山川地域(山川港・津口番所・無瀬浜)→開聞地域(川尻・天の岩屋・縄状玄武岩・皇后来・枚聞神社・玉ノ井等)

【参加者数】15人

【実施内容・目的】

- 企画展において紹介した「海神開聞岳」の海神信仰から発生した地域の神話伝承にまつわる旧跡等を見学するとともに、海神信仰の発祥に深くかかわっている中世・近世の海外貿易港である山川港、琉球使節奉納品等を見学することで、「海と人をつながり」が、このような歴史的景観をも形成したことに関する理解を深めることを目標として実施した。



枚聞神社



皇后来



枚聞神社見学の様子



枚聞神社建物見学の様子

企画展で取り扱った海神としての開聞岳の祭祀をつかさどる枚聞神社や宝物殿に展示されている鹿児島藩主の奉納品や琉球使節の奉納扁額を見学し、海神信仰が成立した海外交易の拠点としての山川港の現地見学活動を実施した。このことで、開聞岳の海神信仰の背景やその実態を学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



玉ノ井見学



玉ノ井見学

玉ノ井は海神信仰から派生して、日本神話の「海幸・山幸」に登場する山幸と豊玉媛の出会いの場である玉ノ井が旧跡として整備されていることから、海神信仰が地域にいまだに地域に根付いていることを知り、海と人との関係が精神世界へも影響を残していることを学んだ。



天の岩屋見学の様子



皇后来見学

さらに、大宮姫伝説の舞台である天の岩屋と皇后来を見学した。この伝承は、高貴な人物が海から帰ってくるといった日本各地の伝承と共通した要素を持っており、「海と人とのつながり」を知り、本市が歴史的に海と関連してきたことを学んだ。

【来館者の声】

- ・現地を見ながら説明を聞け、指宿は海が身近でありがたさを感じているが、さらに学びたいと思った。
- ・枚聞神社と海との繋がりが興味深く、人と物の流れには海の重要性が学べた。
- ・まち歩きで知らないことをたくさん学べ、海は大切だと思った。
- ・海の大事さ、今に繋がっていることを再確認し、きれいな海が戻ってくるよう努力する必要があること、海の大切さがわかった。

■「海の生物の命をつなぐ講座」・「フィールドワーク②」及び「指宿ふるさと学」

【開催日時】2020年5月～11月を予定【中止】

【開催場所】海の生物の命をつなぐ講座；川尻海岸

フィールドワーク②：開聞岳・川尻海岸・脇浦海岸沖

指宿ふるさと学：開聞小学校・川尻小学校・開聞中学校

【対 象】海の生物の命をつなぐ講座；川尻小学校児童

フィールドワーク②：指宿市内の小中学校児童生徒を対象

指宿ふるさと学：開聞小学校・川尻小学校・開聞中学校児童生徒

【実施予定内容】

海の生物の命をつなぐ講座

開聞岳の噴火によって形成された川尻海岸はアカウミガメの産卵場となっている。この講座では川尻小学校と連携し同校児童を対象に、ウミガメ保護観察員や指宿市環境政策課、当館学芸員による、アカウミガメの産卵観察会や卵のふ化観察記録学習、アカウミガメの生態やその産卵地、環境変化による上陸数の減少等に関する学習を行う、「海の生物の命をつなぐ講座」を実施する予定であった。

フィールドワーク②

海上保安署と連携し、巡視船で開聞岳の姿を洋上から観察し、古代から航海目標物として重要な役割を果たしてきた開聞岳への理解を促す。また、開聞岳の噴火でできた複雑な海底地形が豊かな漁礁となり、川尻漁港や脇浦漁港が漁業の拠点となっていることを学び、豊かな海の資源が開聞岳の噴火と密接な関係にあったことを理解する事業を実施する予定であった。

指宿ふるさと学

開聞地域の2小学校・1中学校と連携し、児童生徒を対象として、学校応援団・コーディネータ、かいもん伝え歩きの会の協力を得て、企画展の内容に基づき授業を学校で行う予定であった。授業は開聞岳の噴火・神話伝承・開聞岳を祀る枚聞神社・航海目標物としての開聞岳等とし、海洋学習を推進するものとしていた。

【事業の中止】

地域の小学校・中学校と連携し、「開聞岳」と地域の海を切り口とした学習を複数回予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、実施できなかった。上記の学習に備えたワークシートを作成するだけでなく、市環境政策課によってパワーポイントを作成していただいていた。今回活用できなかったワークシート等は、今後の館の展示等と結び付け、活用していく予定である。

フィールドワーク② ワークシート

指宿ふるさと学 ワークシート

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

●開聞岳は指宿市の市旗のモチーフにも使われている本市のシンボルである。令和元年度には年間に2万6千人強の登山者がいる観光地ともなっている。開聞地域には、開聞岳を祀る枚聞神社があり、その周辺には玉ノ井などの旧跡が近世に整備されている。江戸時代には枚聞神社が「和多津見神社」とも表記され、藩が編集した地誌には開聞岳が海神であり、開聞地域が龍宮界であると記述されている。開聞岳が海神として祀られてきた理由やその経緯に関して、光を当てた展示はこれまでなく、今回初めて実施する機会となった。

●海神開聞岳展の実施によって、開聞岳が歴史的に航海目標物としての位置付けを果たしてきたことから、その信仰が発生し、枚聞神社においても海神を祀るようになり、その信仰が日本神話と結びつき、地域の神話伝承の成立を促したことを解明できた。このことをとおして、古代からの「海と人とのつながり」が地域性をも決定づけてきたこと、その後においても海神信仰が継続したことを示せた。

●企画展の実施をとおして、鹿児島大学、鹿児島県立図書館、枚聞神社、鹿児島神宮等の多様な機関との連携を図れたとともに、地域団体とも連携し、上記の新たな知見を共有することができた。このことから、海とのかかわりが地域の精神性をも決定づけることを広く周知することができた。

●学校と連携し、小中学生を対象とした付帯事業として、「海の生物をつなぐ講座」、「指宿ふるさと学」を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発出や、学校の休校、感染症拡大防止の観点からの外部講師利用中止などにより、令和2年度の学校との連携事業は実施できなかった。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 指宿市郷土芸能保存会	展示写真の提供
2. 川尻区	展示資料借用
3. 枚聞神社	展示資料借用・写真撮影協力
4. 霧島神宮	展示資料借用・写真撮影協力
5. 鹿児島大学	展示資料借用・写真撮影協力
6. 鹿児島県立図書館	展示資料借用・写真撮影協力
7. 指宿市立指宿図書館	展示資料借用・写真撮影協力
8. かいもん伝え歩きの会	フィールドワークのガイド協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 南日本新聞	「海神開聞岳 歴史をたどる」2021年2月27日
2. 読売新聞	「開聞岳 まつわる資料30点 指宿 歴史や「海神」信仰紹介」2021年3月4日
3. 広報いぶすき	「いぶすきまるごと博物館 vol.176 薩摩一宮：枚聞神社」2020年12月
4. 広報いぶすき	「いぶすきまるごと博物館 vol.174 名峰開聞岳」2021年2月
5. 広報いぶすき	「日曜講座が開催 開聞岳を探求しよう」2021年3月

以上